

皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本國皇位ハ祖宗ノ皇統ニ
シテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ
傳フ皇長子及其ノ子孫皆在ラサル
トキハ皇次子及其ノ子孫ニ傳フ以下
皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出

ヲ先ニス皇庶子孫、皇位ヲ繼承ス
ルハ長系次系ノ皇嫡子孫皆在ラサ
ルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄
弟及其ノ子孫ニ傳フ

第六條 皇兄弟及其ノ子孫皆在ラサル
トキハ皇伯叔父及其ノ子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其ノ子孫皆在ラ
サルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ
皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ
嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ
幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身體ノ不洽ノ
重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキ
ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ
前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フ
ルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐

祚シ祖宗ノ神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮ハ^{及大嘗祭}京都ニ於テ之ヲ

行フ

第十二條 即位ノ後大嘗祭ヲ行フコト

祖宗ノ例ニ依ル

第十三條 踐祚ノ後元號ヲ建テ一世ノ

間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ

定制ニ從フ

第三章 成年立后立太子

第十四^三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十五^四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿二十年ヲ以テ成年トス

第十六^五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子ト稱ス
天皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫ト稱ス

第十七^六條 皇后又ハ皇太子皇太孫ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第四章 敬稱

第十八條 天皇太皇太后皇太后
敬稱ハ陛下トス

第十九條 皇太子皇太子妃皇太孫皇太
孫妃親王親王妃内親王敬稱ハ高
殿下トス

第二十條 王王妃女王敬稱ハ殿下トス

天皇未々成年ニ
達セサルトキハ攝
政ヲ置ク
天皇久キニ直ル
故障ニ由リ大政
ヲ親ラスルコト能
ハサルトキハ皇族會
議及樞密顧問ノ
議ヲ經テ攝政ヲ
置ク

第五章 攝政

第十九條 天皇未々成年ニ達セサル

カ又ハ精神若ハ身體ノ不泊ノ重

患ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハ

サル間ハ攝政一員ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル

皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫未々成年

ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝

政ニ任ス

第一

親王及王
皇族男子

第二

皇后

第三

皇太后

第四

太皇太后

第五

内親王及女王
皇族女子

第二十四條

皇族男子、攝政ニ任スル

ハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女

子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十五條

皇族女子、攝政ニ任スル

ハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十六條

最近親ノ皇族未タ成年

ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ

由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキ

ハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ

又ハ其ノ事故既ニ除クト虽皇太子

及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ

讓ルコトナシ

第二十七條

攝政又ハ
攝政タルヘキ者精神若ハ身

體ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アル

トキハ皇族會議及樞密顧問ノ議

ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傳

第二十六條 未成ニ達セサルトキ 天皇幼年ノ時ハ太傳ヲ置

キ保育ヲ掌ラシム

第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傳ヲ

任命セサリシトキハ攝政ヨリ皇族

會議及樞密顧問ニ諮詢シ之ヲ選

任ス

第二十八條 太傳ハ攝政及其ノ子孫之ニ

任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧

顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅
ヲ退職セシムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第三十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇
太后皇后皇太子皇太子妃皇太孫
皇太孫妃親王親王妃内親王王王妃
女王ヲ謂フ

第三十條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマデ
ハ男ヲ親王女ヲ内親王トシ五世以
下ハ男ヲ王女ヲ女王トス

第三十條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ
承クルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王女

ル者ニ特ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十五條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣ヨリ之ヲ公告ス

第三十六條 皇統譜及前條ニ關ル記錄ハ圖書寮ニ於テ尚藏ス

第三十七條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十八條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ撰行ス

第三十九條 皇族男女幼年ニシテ父ナ

キ者ハ宮内ノ官僚ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜ニ依リ天皇ハ其ノ父母ノ選舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ勅選スヘシ

第四十條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ勅旨ニ由リ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十二條 皇族ノ婚嫁ハ勅許ニ由ル

第四十三條

皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ

キハ勅書ハ親署シ宮内大臣之ニ副

署ス

第四十四條

皇族ハ養子ヲ為スコトヲ

得ス

第四十五條

皇族國疆ノ外ニ旅行セ

ムトスルトキハ勅許ヲ請フヘシ

第四十六條

皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタ

ル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ

依リ仍内親王女王ノ稱ヲ有セシムル

コトアルハシ

第八章 世傳御有^料

第四十七條^五 御料^料ノ土地物件、キ^ニ世傳御有^料ト定メタルモノハ分割譲與スルコトヲ得ス

第四十八條^六 世傳御有^料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問^二議^一ヲ經勅書ヲ以テ之ヲ定メ宮内大臣ヨリ之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ

常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室經費ノ豫算決算検査

及其、他ノ規則ハ皇室會計法ノ定
ムル所ニ依ル

御
覽
院

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ

勅旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判負

ヲ命シ裁判セシメ勅裁ヲ經テ之ヲ

執行ス

第五十條 皇族ノ人民ノ間ニ起ル

民事訴訟ハ初審及終審^{東京}控訴院

ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇族ハ代人

ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ^{自ラ}訟廷ニ出ルヲ

要セス

編
年
記

第五十^一條

皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サ
レハ勾引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコ
トヲ得ス

第五十^二條

皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ
所行アリ又ハ皇室ニ對シ忠順ヲ缺
クトキハ勅旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ
重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全
部ヲ停止シ若ハ剝奪スヘシ

第五十^三條

皇族蕩産ノ所行アルトキ
ハ勅旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ

其ノ管財者ヲ任スヘシ

第五十^四條

前二條ハ皇族會議ニ諮
詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十七條^五 皇族會議ハ成年以上ノ皇

族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大

臣司法大臣樞密院議長大審院長ヲ

以テ参列セシム

第五十八條^六 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又

ハ皇族中ノ一員ニ命ジテ議長タラ

シム

第十二章

補則

第五十九條 現在、皇族五世以下親王、

號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第六十條 皇位繼承ノ順序ハ然テ等

親實系ニ依ル現在皇養子皇猶

子又ハ他ノ繼嗣タルハ故ヲ以テ之ヲ

混スルコトナシ

第六十一條 親王内親王王女王、品位ハ

之ヲ廢ス

第六十二條 親王ノ家格及ハ世襲親王

諸達其、他此、典範ニ抵觸スル者
ハ總テ之ヲ廢ス

第六十條 皇族、財産歳費及諸規
則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十^二條 將來此ノ典範、條項ヲ^改變
東シ又ハ増補スヘキ、必要アルニ當テ
ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シ
テ之ヲ決定スヘシ

大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天
皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ
依リ皇子^男孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權
ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之
ヲ施行ス